

# 周南地区大会決勝戦評

## ○男子決勝

下松工○75(23-15 15-21 15-3 22-19)58●南陽工

下松工オールコートマンツーマン、南陽工ハーフコートマンツーマン。下松工は#7の3Pで先制すると、南陽工は#5の3Pですかさず返す。両チーム激しいディフェンスで迎え撃つが、下松工は早いパス回しと鋭いドライブから加点していく。南陽工は序盤シュートが入らずリードを許すが、#15がドライブを中心にほぼ一人で得点を重ねて追いつき、下松工23-15南陽工。2Q、下松工はハーフコートマンツーマン、南陽工は1-2-2ゾーンディフェンスに切り替える。下松工はこれを崩せず得点できない。南陽工はディフェンスからの速攻と#7の連続3Pで逆転し、南陽工に流れが傾く。しかし残り2分を切ったところで下松工はハイポストに合わせてからのオフェンスから確実に加点し、再逆転する。下松工38-36南陽工で前半終了。3Q、南陽工はゾーンディフェンスを継続するが、連携ミスから連続ファール。下松工は外と中のバランス良いオフェンスを継続し、徐々にリードを広げる。下松工はボールマンに対する激しいプレッシャーディフェンスに対し、南陽工はオフェンス面でもミスを連発し得点できない。下松工53-39南陽工。4Q、南陽工のゾーンディフェンスに対して、下松工は3Qと同様、早いパスワークから確実に加点する。南陽工も#7を中心に得点を重ねていくが、下松工の激しいディフェンスで流れを掴めない。下松工75-58南陽工、下松工の勝利。両チーム最後まであきらめないプレーで会場を沸かせた好ゲームであった。

## ○女子決勝

徳山商工●40(10-22 7-11 15-14 8-17)64○光

お互いにマンツーマンでスタート。センターのハイ・ローを中心に攻める光に対し、速攻からの1対1で得点を重ねる徳山商工。しかし、コーチの「前へ」の声もむなしくミスの連続。思うように得点が伸びない。一方の光もゴール下のシュートミスが目立つが徐々に高さが効き始め、フリースローなどで得点を重ね点差が開き始める。徳山商工10-22光。2Q、徳山商工ディフェンスを強めたいところだが、光1年生#16にうまくかわされ思うようにプレッシャーをかけられない。一方の光も突き放したいところでミスを繰り返し、流れをつかみきれない。徳山商工17-33光で前半終了。後半開始早々、光のミスを突き速攻からの連続得点で徳山商工詰め寄るが、肝心なところで3Pが決まらない。徳山商工#9が孤軍奮闘頑張るも決め手を欠き追いつくには到らない。前日の中国予選同様精彩を欠いた徳山商工に対し、終始ペースを握った光が徳山商工40-64光と危なげなく逃げ切った。決してよい出来ではなかったが、光はハイ・ローが機能しセンター陣が得点を重ねたことが光明か。一方徳山商工は有望な1年生も多く、2・3年生の奮起に期待したい。